

新たな産業立地基盤の創出に向けた具体的なアクション 「生活課題産業化」

平成28年～

“地方創生”をきっかけに社会課題の共有から具体的な取組の創出に向けたアクションへ

強み

多摩地域の産業立地特性

- 都心部（本社機能集積地）との近接性、420万の人口集積
- ものづくり（電気機械、電子部品デバイス等）の集積特性
- 研究開発拠点化の動向 ・多くの大学等が立地



課題

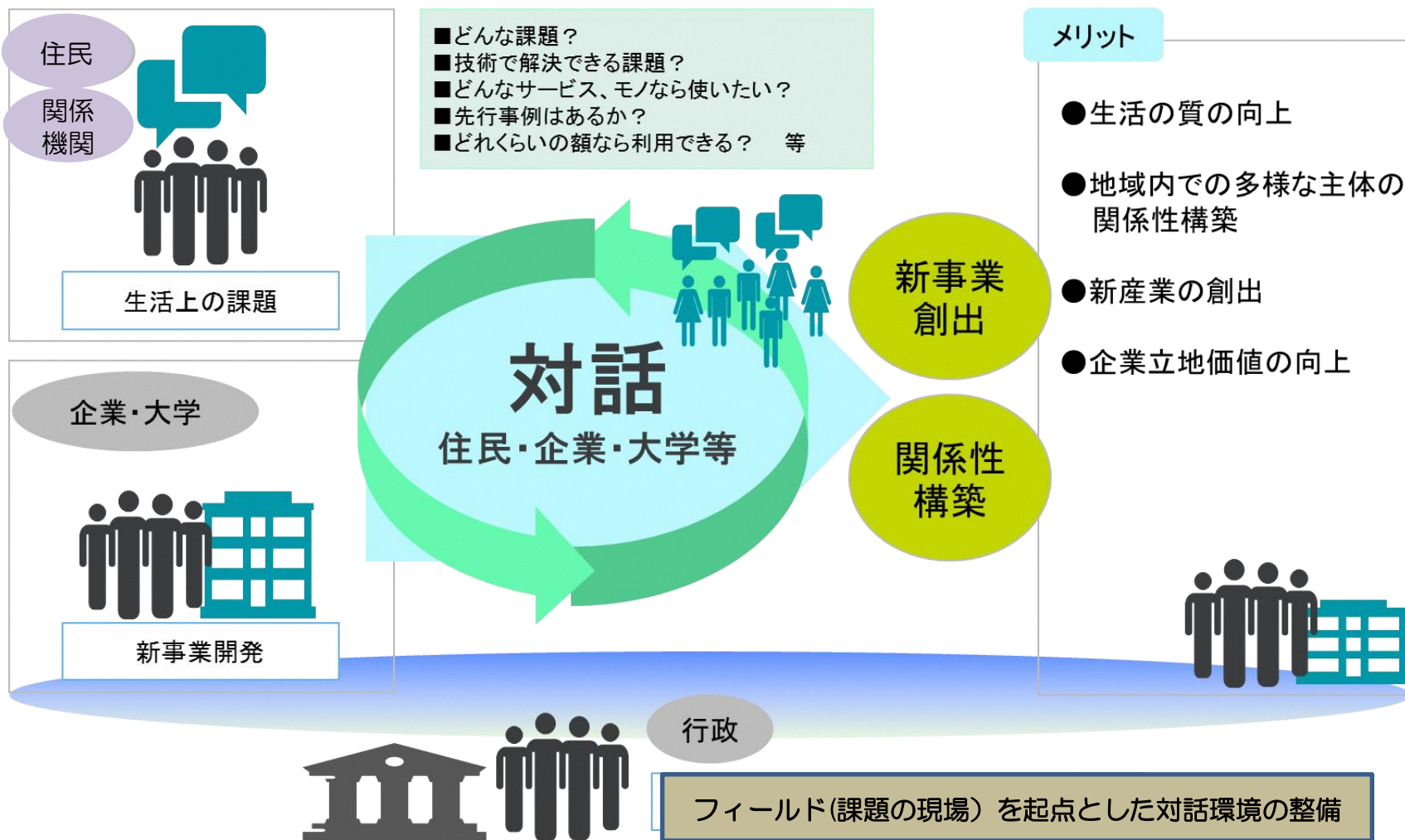
多摩地域の都市課題の特性

- 今後、超高齢課題が最大化する高齢人口の過密地域
- 人口減少への転機 ・子育て保育需要の増台など

「生活課題産業化」という考え方

- 地域課題を資源とした新たなサービス、ビジネスモデルの創出
- 課題主導による産学官民の連携の誘導

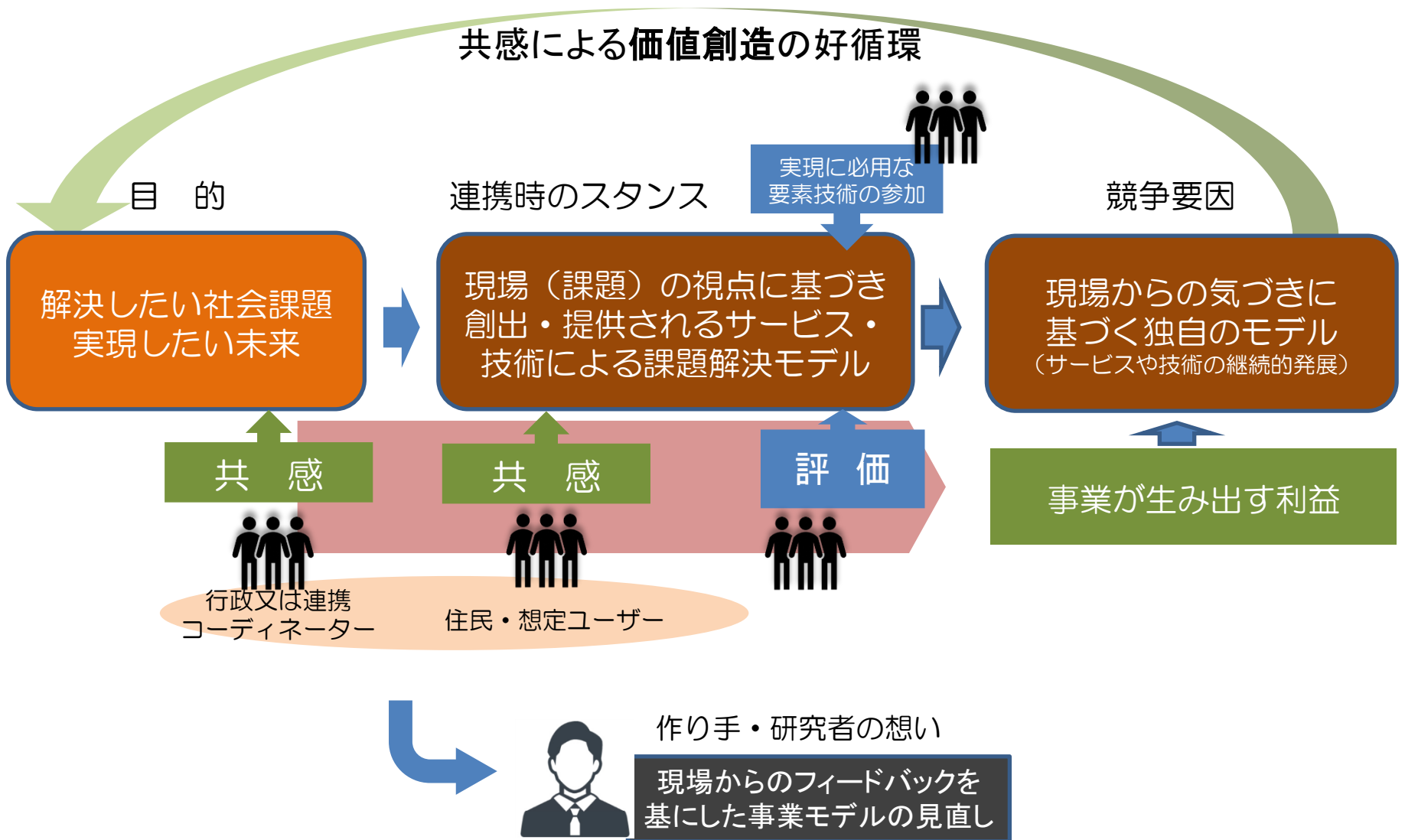
(生活課題産業化イメージ)



平成28年度から、日野市型ローカルイノベーション環境形成のため、社会・地域課題の解決をテーマとした産学官連携事業を募集し、4つのテーマプロジェクトで継続的な取り組みを実施

社会課題への取組には共感から価値を生み出すサイクルによる持続性が必需

企業と自治体、住民が共創する事ができる前提は“共感”があること
共感と対話を起点とした新たな価値共創のプロセス



ユーザー視点である事、バックキャスト思考からの社会的価値

例えば・・・社会課題を“対話”で共有し、解決に向かうフラットな場 リビング・ラボ



Tamadaira Living Lab

あらゆる世代の意見交換



自分の意見 共有の場 参加型